



パフォーマンスは、
後に続く者のために
発揮されている

Hideo Nomo

野茂英雄

野茂氏についての詳細な説明は、もはや不要だろう。日本のプロ野球のあり方を変えただけでなく、メジャーリーグにも「国際化」という新たな流れをつくった。しかし本人には「先駆者」という意識はない。その真意とは、どのようなものだったのか。

「自分で決めたこと」への強い覚悟と「メジャー先発」の魔力

メジャーリーグへの挑戦は、野茂氏が「野球人生で初めて自分自身で決断したことだった」。新日鐵堺野球部への入部やプロへの転身は人の勧めるままに受け入れたが、やがて世界で一番力のある選手を相手に投げられるメジャーという舞台を夢見るようになり、それは強い決意へと変わる。

「自分で決めたことだからこそ、マイナーからのスタートも覚悟していました。ただ、トルネード投法できちんと投げ続けられるならば、メジャーリーグでもやれるのではないかという確信もありました。投げ方、投げる感覚のいずれもが、自分のイメージ通り指先に伝わればいける」と。

野茂氏がメジャーリーグ入りする頃は、選手会の大規模ストライキが続くなど、メジャーリーグは変革への陣痛に苦しんでいた。そこに登場した「ドクター

K」は、独自のトルネード投法で大リーガーたちの度肝を抜く。史上4人目となるノーヒット・ノーランを2回達成したことがその実力を象徴している。同時に、海外の一流選手たちが活躍するという、メジャーリーグの新たな時代の始まりを強烈にアピールすることになった。

メジャーリーグには、日本のプロ野球とはまったく違う文化があったという。「日本では監督の采配がすべてのように言われますが、メジャーの監督は選手たちの個性を生かす采配をしてくれるので、自ずと評価も選手中心になります。その代わり、選手は厳しい評価に身をさらさなければなりません。そしてファンの野球を見る目の確かさと、熱狂度合いのレベルが違う。先発としてマウンドに立ったときに見える景色、沸き起こるファンの歓声に触れた者ならば、マウンドに1年中立ち続けたいと思わない者はいないでしょう」。

シヨビビジネスとして成熟しているだけに、選手たちには常に最高のパフォーマンスが求められる。それ故に、特に投手の体

には過酷な試練がつきまとう。野茂氏も右肘の故障に泣かされ、トップ球団から最下位球団、さらにはベネズエラのウインターリーグと辛酸もなめた。08年4月10日、1000日におよぶハビリを経て再びメジャー先発を果たすが、そこまでしてメジャーリーグに挑み続けたのも、「先発マウンドのあの景色と歓声が忘れられないからだった。しかし、「この試合でも、納得できるパフォーマンスを見せることはできなかったのですが」と穏やかに笑った。

自分が活躍できた世界を次の世代に受け継ぐのがプロの責任だ

「メジャーリーグにいる時に野球選手としての能力が向上したとは思いません。ただ、一人の野球人として、多くのことを学ぶことができました。それは、次世代の若者を自らの手で育てようとする選手たちの努力だった」。

「メジャーリーグの選手たちは、試合や移動で忙しい中でも寸暇を惜しんで子どもたちのための野球教室に参加しています。日本のプロ野球は、選手をファンに近

寄らずに特別な存在にしようとしていました。しかしアメリカでは、未来のメジャープレイヤーを育て、自分が活躍できた世界を次の世代に受け渡すのがプロの責任、そういう考え方が浸透しているところに感銘を受けました」。

振り返ってみれば、野茂氏自身も新日鐵堺という「ふ卵器」に育まれ、プロの世界に飛び込むことができた。メジャーリーグの選手たちと同じように、自分も次世代のプロを育成するのが務めではないのか。

そんな想いが、大阪堺を拠点とする社会人野球クラブチーム「NOMOベースボールクラブ」の設立につながった。05年には結成2年目にして都市対抗野球大会に初出場し、全日本クラブ選手権では日本一に輝いた。いま、クラブは拠点を兵庫県豊岡市に移し、選手たちは城崎温泉の宿で働きながら明日のプロ選手をめざしている。「プロ野球選手になり、そして自らもまた野球をやる子どもたちを育てる。その循環が当たり前になるのが僕の夢になりました」。

そこにも、自らの決断に愚直なまでに忠実であろうとする姿があった。



野茂英雄(のも ひでお)

日本人選手のメジャー挑戦のバイオニアとして知られる人物であり、背中を打者に向ける独特の投法「トルネード投法」で活躍した名投手。1968年大阪府生まれ。成城工高から新日鐵化学に入社すると共に新日鐵堺の野球部に入部、日本代表として88年にはソウル五輪の銀メダル獲得に貢献。90年、近鉄パファローズ(現 オリックス・パファローズ)。95年、メジャーのロサンゼルス・ドジャース。以後2008年の引退までメジャー在籍は12年。日本では78勝46敗。メジャーでは123勝109敗。2度のノーヒットノーランは史上4人目。

Contents

02 スペシャル・インタビュー【先駆者たち】

野茂英雄
(元プロ野球選手)

04 Special Feature

2015.3.13 新工場完成
大空の安全を担う
川崎重工の航空機づくり

09 時代を切り拓く【Epoch Maker】

油圧ポンプ

10 【TechnoBox】

クローズドコース専用モデル
Ninja H2R

12 【川に見る・日本の四季】

琵琶湖から「春」を遡る

14 HOT TOPICS

【表紙】
稼働を待つオートクレーブ(愛知県・名古屋第一工場 東工場にて)
→詳しくは「Special Feature」(4~8ページ)をご覧ください